

## [003]臺灣演習林植物調査

初島, 住彦  
九州帝国大学助手

<https://doi.org/10.15017/14202>

---

出版情報 : 九州帝国大学農学部演習林報告. 3, pp.1-257, 1933-06. 九州大学農学部附属演習林  
バージョン :  
権利関係 :

從來センリヤウと同一視されてゐたるも實は橙色を呈しセンリヤウとキミノセンリヤウの中間なり。林内各地に生じ普通なり。

シマアヲネカヅラ

*Sabia Swinhoei* Hemsley

スキンホエーが嘗て淡水にて採集せし以來所在を知る由も無かりしが本林内低地に相當多數發見することを得たり。

ミヤヲサウ 八角蓮

*Podophyllum pleianthum* Hance

本種は一八八三年 *Podophyllum* 屬の第三種としてハンス博士により發表されたる珍種にして、和名は川上瀧彌氏が時の臺灣總督府の殖産局長宮尾舜治氏の爲に名づけたるものなり。本林内にては第十一林班の海拔約九百米の森林内に生じ稀なり。

マツムラサウ

*Titanotrichum Oldhami* Solereder

本植物は臺灣固有の屬に屬する學術上興味あるものにして、ゾルレーダは一九〇九年九月發行の獨逸植物學會會報に發表せり。然るに英人ヘムズレーは同年十月キユウ報告に *Matsumuria* なる新屬を發表せるも二ヶ月遅れたため前者にブライオリチーあるは遺憾とす。

## (七) 演習林産植物數の統計

### a. 系統分類上の統計

今演習林産植物の統計を示せば次の如し。

範疇 \ 區別	科	屬	種
古生花被區門	71	160	255
後生花被區門	30	117	171
雙子葉植物	101	277	426
單子葉植物	15	93	155
被子植物	116	370	581
裸子植物	3	3	3
種子植物	119	373	584
羊齒植物	13	50	157
合計	132	423	741

## b. 生活形上の統計

範疇 \ 生活形記號	MM	M	N	Ch	H	G	T	E	L
古生花被區門	37	61	33	15	25	2	21	11	49
後生花被區門	2	21	29	3	49	1	32	3	29
雙子葉植物	39	82	62	18	74	3	53	14	78
單子葉植物	1	5	3	2	75	16	23	21	9
被子植物	40	87	65	20	149	19	76	35	87
裸子植物	2	1	0	0	0	0	0	0	0
種子植物	42	88	65	20	149	19	76	35	87
羊齒植物	0	2	2	4	101	1	1	43	2
合計	42	90	67	24	250	20	87	78	89

備考 上記生活形の分類は Epiphytes 及 Lianes を除く外はラウンキエル氏の生活形分類法に依れり。今生活形記號の基語並にその釋語を示せば次の如し。

MM	Mesophanerophytes	喬木
M	Microphanerophytes	亞喬木
N	Nanophanerophytes	灌木
Ch	Chamaephytes	近地表植物
H	Hemicryptophytes	淺地下植物

G	Geophytes	.....	深地下植物
T	Therophytes	.....	一年生植物
E	Epiphytes	.....	着生植物
L	Lianes	.....	蔓性植物

### c. 我國の九州以北に産せざる科名

九州以北に産せざる科名は次の六科なり。

Malpighiaceae	キントラノヲ科
Bignoniaceae	ノウゼンカヅラ科
Anonaceae	バンレイシ科
Capparidaceae	フウテウサウ科
Myrtaceae	テンニンクワ科
Musaceae	バセウ科

内前二者は本邦にては臺灣以北に産せざる科なり。

### d. 一科及一屬にして多数の種を有する科名並に屬名

一科にして八種以上の種を有するものを数の多き順序に配列せば次の如し。

118 種	Polypodiaceae	(ウラボシ科)
50 ,,	Poaceae	(イネ科)
43 ,,	Orchidaceae	(ラン科)
31 ,,	Asteraceae	(キク科)
25 ,,	Rubiaceae	(アカネ科)
22 ,,	Cyperaceae	(カヤツリグサ科)
18 ,,	Urticaceae	(イラクサ科)
16 ,,	Fabaceae	(マメ科)
15 ,,	Lauraceae	(クス科)
13 ,,	Hymenophyllaceae	(コケシノブ科)
12 ,,	Moraceae (クハ科)	Lamiaceae (オドリコサウ科)

- Euphorbiaceae (タカトウダイ科)
- 10種 Liliaceae (ユリ科) Rhinanthaceae (ゴマノハグサ科)
- 9 „ Fagaceae (ブナ科)
- 8 „ Vitaceae (ブドウ科) Ternstroemiaceae (ツバキ科)
- Acanthaceae (キツネノマゴ科) Rhodoraceae (シヤクナゲ科)

一屬にして五種以上を有するものを数の多き順序に配列せば次の如し。

- 22種 Dryopteris (ヲシダ屬)
- 14 „ Polypodium (ウラボシ屬)
- 10 „ Asplenium (トラノヲシダ屬)
- 9 „ Pteris (キノモトサウ屬) Ficus (イチジク屬) Diplazium (シケシダ屬)
- 8 „ Trichomanes (ウチハゴケ屬)
- 7 „ Ilex (モチノキ屬) Polystichum (キノデ屬) Bobua (ハヒノキ屬)
- Bladhia (マンリヤウ屬) Hymenophyllum (コケシノブ屬)
- 6 „ Desmodium (ヌスビトハギ屬) Cyperus (カヤツリグサ屬)
- Mephitidia (ルリミノキ屬) Lycopodium (ヒカゲノカツラ屬)
- Persicaria (タデ屬)
- 5 „ Languas (ハナメウガ屬) Panicum (キビ屬)
- Oplismenus (チヂミザサ屬) Quercus (カシ屬)

#### e. 支那系、比律賓系、琉球系、内地系植物

##### 支那系

ハツカクレン、ツルリユウガン、ホソバヤマカウバシ、シナクスモドキ、ヤドリ  
 オホバトベラ、セイバンカマツカ、ヤハズカツラ、タマザキガフクワン、テリバザ  
 ンセウ、ケイヌツゲ、モクゲンジダマシ、タイワンツバキ、タイワンタラノキ、ヤ  
 ドリフカノキ、シユジヨウツツジ、シナヤブカウジ、タイワンマメガキ、ハンノハ  
 エゴノキ、マキバクサギ、シラゲクサギ、センダンキササゲ、タイワンシシンラン、  
 タイワンサギゴケ、タイワンクチナシ、トウ、ユズノハカツラ、ナガバイボクサ、

シナイボクサ、ヤンバルメウガ、サクラセキコク等にして主として南支那産のもの多し。之以外支那系と思はれ、臺灣以外に琉球、九州等迄分布する種あるも之等は除外せり。

### 比律賓系

タカサゴイナモリ、ホウライムラサキ、ナガバムラサキ、ルズンガマズミ、ヒメチゴザサ、ルズンホシクサ、タカワラビ?等にして支那系に比し極めて少し。

### 琉球系

此處に云ふ琉球系とは琉球諸島(便宜上北は屋久島、種ヶ島をも包含せしむ)と臺灣に限りて産する種類を云ふ。

リウキウコケシノブ、チャボヘゴ、ヒヨケヘゴ、ホクトアミシダ、ハンコクシダ、(フササジラン)、シマシロヤマシダ、ホラカグマ、(シマヤハラシダ)、コバザケシダ、(イタチシダモドキ)、(シマヤマソテツ)、(タイワンアヲネカツラ)、ホコザキウラボシ、(タイワンイタチシダ)、タイワンジフモンジシダ、ナナバケシダ、ウラジロカンコノキ、ムツチャガラ、ドクブダウ、ナガヘサカキ、ヒメウマノミツバ、セイシクワ、コンロンクワ、ヒナヨシ、クロツグ、カラスギバサンキライ、(シマエビネ)、シマシユスラン、(アリサンハコベ)。 (備考 括弧内の種名は屋久島と臺灣島だけに産するものなり)。

### 内地系

此處に云ふ内地系とは通常内地に産し、臺灣を以て本邦に於ける南限とするものなり。

オホハナワラビ、ハナヤスリ、アラガネシダ、オホコケシノブ、ミヤマノコギリシダ、ホシダ、フウトウカツラ、イチキガシ、ツクバネガシ(南支那?)、ヤマグルマ、タカノハウラボシ、ヤリノホクリハラン、オホイタチシダ、ナンカクラン、アハゴケ、クロバヒ、カンザブラウノキ、ハダカホホヅキ、コバノジユズネノキ、マツバキ等なり。